

## トピックス

### ビブリオバルニフィカス感染症について

劇症型A群連鎖球菌と共にその一部が“[人食いバクテリア](#)”の異名を持つビブリオバルニフィカス感染による被害が先日ハリケーン「カトリーナ」が上陸した地域から報告されています。

アメリカ南東部を襲ったハリケーン「カトリーナ」被災者の中で、7名がビブリオバルニフィカスに感染し、うち4名が死亡したとCDCその他で報告されています。

ビブリオバルニフィカスは海水と淡水が混じりあう温かい「汽水域」に普通に生息している細菌ですが、この菌による感染では、皮膚の壊死、ショック等を伴い死亡率も高い重篤な疾患を起こすことも知られています。ヒトへの感染経路は傷口からの経皮感染、魚介類の生食(特にカキ)と考えられ、重篤な疾患は糖尿病や肝疾患を伴った人に高率に発症します。今回の例は洪水によりあふれた汚水につかり、傷口から感染したものと考えられます。わが国では1978年以降魚介類の生食が主な原因と考えられる約100例のビブリオバルニフィカス感染症が報告され、報告された症例における死亡率は約70%と非常に高いものとなっています。

\* 劇症型 A 群レンサ球菌感染症 (人食いバクテリア症)

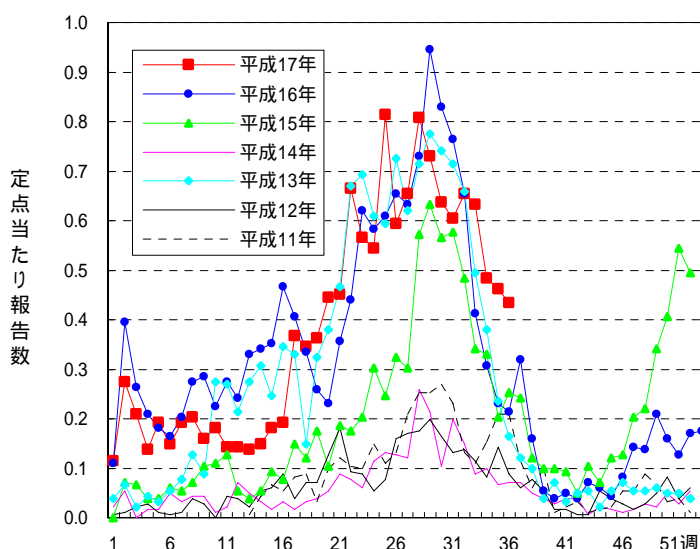
([http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/streptococcus\\_pyogenes.html](http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/streptococcus_pyogenes.html))

\* ビブリオ・バルニフィカス感染症

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/vulnificus.html>)

## 流行状況

### 咽頭結膜熱



その他の疾病のグラフについては「[グラフ総覧](http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf)」(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>)をご覧ください。

愛知県感染症情報 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)

平成 17 年度疾患別ウイルス検出状況速報 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>)

国立感染症研究所感染症情報センター (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

予防接種法に関する政省令の改正について (<http://idsc.nih.go.jp/vaccine/2005reg.html>)

予防接種スケジュール (<http://idsc.nih.go.jp/vaccine/dschedule.html>)

8 月の一～五類感染症 (全数把握対象) 発生状況

平成 17 年度に発生のおった 疾病名 内は全対象疾病数	平成 17 年 8 月			平成 17 年度 累 計 (愛知県)	備考 (8 月)	
	県 分 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県			
一類 感染症 7					発生報告無し	
二類 感染症 6	細菌性赤痢	1	2	3	14 (1)	
	腸チフス	1		1	3	
	パラチフス	1	1	2	3	
三類 感染症 1	腸管出血性大腸菌 感 染 症	30 (10)	21 (4)	51 (14)	115 (31)	O26 4 件 O157 47 件
四類 感染症 30	E 型 肝 炎				1	
	A 型 肝 炎				2	
	オ ウ ム 病		1	1	3	
	デ ン グ 熱	1		1	1	
	ボ ツ リ ヌ ス 症				1	
	マ ラ リ ア	1	1	2	6	熱帯熱 1 件 三日熱 1 件
	レ ジ オ ネ ラ 症	1	1	2	9	
五類 感染症 14	ア メ ー バ 赤 痢	1	5	6	22	
	ウイルス性肝炎 (E 型肝炎及び A 型 肝炎を除く。)				1	
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び 日本脳炎を除く。)				2	
	クロイツフェルト・ ヤ コ ブ 病	1		1	2	孤発性 1 件
	後天性免疫不全 症 候 群	6	5	11	33	AIDS 1 件 無症候性 9 件 その他 1 件
	ジ アル ジ ア 症	1		1	1	
	梅 毒	1	3	4	22	早期顕症 4 件
	バンコマイシン耐性 腸球菌感染症	1		1	1	

( ) 内は無症状病原体保有者

## 五類感染症（月報定点把握対象）発生状況

No	疾 病 名	平成 17 年 8 月			平成 17 年 7 月		
		県 分 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県 全体	県 分 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県 全体
1	性器クラミジア感染症	113	33	146	112	24	136
2	性器ヘルペスウイルス感染症	40	7	47	31	6	37
3	尖形コンジローマ	28	13	41	27	4	31
4	淋菌感染症	93	18	111	69	25	94
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	68	7	75	82	5	87
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症						
7	薬剤耐性緑膿菌感染症					1	1

上記の報告数は感染症月報指定届出機関(性感染症:51、基幹:13 医療機関)で把握したものです。

### 感染症の類型及び定義

類 型	定 義
一類感染症 (7 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症 (6 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。
三類感染症 (1 疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (30 疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症（人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。）
五類感染症 (42 疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。

## 定点コメント（名古屋市除く）

### 尾張西部地区

病原性大腸菌 O1 9 か月女  
 病原性大腸菌 O25 4 歳女  
     【一宮市 城後小児科】  
 大人の扁桃炎の後に子供の非細菌性扁桃炎散発  
 アデノ陽性となるものあり。  
 病原性大腸菌が目立ちます。  
     【犬山市 武内医院】

感染症あまり見あたりません。  
     【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】  
 23 歳女 マイコプラズマ肺炎  
     【春日町 丹羽医院】

---

## 尾張東部地区

---

咽頭結膜熱が少しみられます。  
マイコプラズマ感染もあります。  
【瀬戸市 津田こどもクリニック】  
今週も静かな外来が続いています。  
特に目立った感染症はありません。  
ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎散発  
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】  
アデノウイルス感染症、突発性発疹症を  
みます。  
【春日井市 春日井市民病院】

水痘、溶連菌感染症、少々  
【春日井市 朝宮こどもクリニック】  
マイコプラズマ感染、37歳女、9歳女(母子)  
【春日井市 竹内医院】  
アデノ咽頭炎の入院あり。  
【小牧市 小牧市民病院】  
アデノウイルス感染が続いています。  
【小牧市 志水こどもクリニック】  
感染症患者少ないです。  
【大府市 まえはらこどもクリニック】

---

## 西三河地区

---

1歳男 病原大腸菌O1  
6歳男 カンピロバクター腸炎  
2歳女 ラピッドテストアデノ(+)   
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】  
1歳男、14歳男 カンピロバクター(+)   
3歳女 サルモネラO4   
【岡崎市 花田こどもクリニック】  
3歳女、1歳男 アデノ(+)   
1歳男 サルモネラO8、病原性大腸菌O1  
VT(-)   
1歳男 病原性大腸菌O111 VT(-)   
【岡崎市 にいのみ小児科】  
9か月女 病原性大腸菌O1、O18  
3歳男 病原性大腸菌O1  
5歳男、8歳男 マイコプラズマ肺炎  
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

4歳男 サルモネラO4   
【刈谷市 まついこどもクリニック】  
アデノウイルス感染症時々あり。  
【碧南市 永井小児クリニック】  
7歳男 キャンピロ   
【西尾市 こどもクリニック宮地医院】  
10歳男 サルモネラO4  
4歳男 病原大腸菌O6  
3歳女 病原大腸菌O1+カンピロバクター   
【西尾市 やすい小児科】  
18歳女カンピロバクター腸炎   
【西尾市 山岸クリニック】  
3歳男 カンピロバクター  
3歳女 E.coli O18 VT(-)   
流行性耳下腺炎がやや多い。  
【幸田町 とみた小児科】

---

## 東三河地区

---

3歳女 カンピロバクター   
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】  
8歳女 アデノ扁桃炎   
【豊橋市 野村小児科】  
全体的に患者数少ない。  
【豊川市 豊川市民病院】

2歳女 サルモネラO8  
1歳男 病原性大腸菌O1   
【豊川市 ささき小児科】  
腸炎が目立つ  
サルモネラO9 8歳姉、5歳弟あり。  
カンピロバクター腸炎 2歳男   
【蒲郡市 蒲郡市民病院】

## 一 ～ 三類感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

細菌性赤痢

<関連リンク> 二類感染症

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#2-3>)

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	備考
1	西尾	20	女	8/31	8/31	9/5	推定感染地域 インド 35週報の再掲

腸管出血性大腸菌感染症

<関連リンク>

([http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/eaggec.html#2\\_4](http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/eaggec.html#2_4))

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	備考
1	瀬戸	20	女	8/28	8/30	9/3	O26 VT1(+) 35週報の再掲
2	豊川	70	男	8/30	8/30	9/5	O157 VT1(+) VT2(+) 35週報の再掲
3	江南	9	女	9/7	9/8	9/11	O157 VT2(+)
4	知多	33	女		9/6	9/9	O157 VT2(+)

## 四類・五類(全数把握)感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

クロイツフェルト・ヤコブ病1例(孤発性) 35週報の再掲

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#5-5>)

## 感染症だより(8月後半)

平成17年9月15日

愛知県衛生研究所企画情報部(文責 磯村)

あれほど騒がしかった蝉が静かになり、虫の音が響くようになりました(かつての昆虫少年、ミツカドコウロギとツツレサセコウロギの区別が今でも出来ます)。いつも貴重な情報を有難うございます。前回に引き続き8月後半のまとめを主にお送りします。

1) 名古屋市内: 名鉄病院福田先生からは咽頭結膜熱と感染性胃腸炎が比較的多く入院例も目立ち、ヘルパンギーナは減少傾向で手足口病は殆どなく、マイコプラズマ肺炎は一定数入院、無菌性髄膜炎の目立った流行はない、城北病院渡辺先生からは病原性大腸菌O157陽性者散見(重症者やVT陽性例は少ない)、ヘルパンギーナと手足口病は今年はとて少なく喘息様気管支炎の入院例で生後数か月の児でRS陽性例が少しあり、第二日赤岩佐先生からは要入院例でサルモネラ腸炎の患児あり、アデノウイルス陽性の咽頭炎・扁桃炎の入院例散発、千種区今枝先生からは腸管出血性大腸菌感染症15歳女、カンピロバクター腸炎18歳女性あり、三菱病院入山先生からは感染性胃腸炎9名(病原性大腸菌O-020、025、146、01、06、0120、18、入院1

名)と目立ち、A群溶連菌咽頭炎3名(1名入院)、気管支肺炎入院2名(1名マイコプラズマ感染)、アデノウイルス咽頭炎入院1名、アデノウイルス腸炎入院1名、大同病院水野先生からは外来は落ち着いているがRSウイルス感染症が出始め喘息性気管支炎の入院目立ち、アデノウイルスによる扁桃炎が多くサルモネラ、カンピロバクター、大腸菌O157などの細菌性腸炎が目立ちO157による溶血性尿毒症症候群あり、とのお手紙でした。

2)尾張地区:犬山市武内先生からは感染症が激減の中、咽頭結膜熱、A群溶連菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、ムンプスがそれぞれ散発、江南市昭和病院小児科からはカンピロバクター腸炎、アデノウイルス感染症の入院、百日咳の入院、ムンプス髄膜炎の入院目立つ、常滑市民病院上田先生からはムンプス、突発性発疹(脱水の入院例目立つ)、感染性胃腸炎(入院目立つ)、手足口病、マイコプラズマ肺炎、ムンプス髄膜炎の入院例が目立つ、市立半田病院中島先生からは感染症で目立つものはない、とのお手紙でした。

3)三河地区:トヨタ病院木戸先生からは川崎病散在、アデノウイルス感染症による入院例もあり、加茂病院梶田先生からはヘルパンギーナ減少、胃腸炎、水痘、ムンプスがやや多く、細菌性火傷様症候群の入院がやや多く川崎病が8月中に4名入院、豊橋市からはアデノウイルス感染症、突発性発疹症、カンピロバクター腸炎が目立つ(市内長屋先生、宮澤先生)とのお手紙でした。有難うございました。

## WHO疫学週報抜粋抄訳

平成17年9月15日

愛知県衛生研究所企画情報部(文責 磯村)

2005年8月26日(80巻34号) <http://www.who.int/wer/2005/wer8034/en/>

ハンセン病(WHOの記載は Leprosy)。2005年の世界の状況:05年時点のまとめ。緒言:04年の年間新規登録患者数は約40万8千人で前年比21%減、この減少は主としてインドの29%減によっている。1985年以来全世界で1,400万以上の患者が多剤併用療法(Multidrug therapy, MDT)を受けている。公衆衛生上ハンセン病が問題となっていてWHOが重点目標にしている国は現在アフリカ地域で6カ国(アンゴラ、中央アフリカ、コンゴ共和国、マダガスカル、モザンビーク、タンザニア)、東南アジア2カ国(インド、ネパール)、ラテンアメリカ1カ国(ブラジル)の計9カ国でこれら諸国におけるハンセン病根絶のためにWHOは技術移転、疫学調査支援、MDT薬剤無料投与援助、薬剤配布センター整備と担当部局の支援を継続している。現況のまとめ(地区別、国別の詳細な表あり。ここではそのいくつかの概略を紹介):WHO地域別の登録患者数はアフリカ地域、東南アジア地域、アメリカ地域(ブラジル)に集中。01年から04年までの登録患者数は01年に約76万であったのが04年には約41万に減少。04年当初の登録患者数は上記重点9カ国ではインド265,781、ブラジル79,908、ネパール7,549、コンゴ共和国6,891、モザンビーク6,810、マダガスカル5,514、タンザニア5,420、アンゴラ3,776、中央アフリカ952となっている。04年の年間新規登録患者数が1,000例以上ある国で世界上位20カ国の一覧表では上記の9カ国以外にインドネシア16,549、バングラデシュ8,242、ナイジェリア5,276、エチオピア4,787、ミャンマー3,784、フィリピン2,254、スリランカ1,995、中国1,499などが目立っている。世界の114カ国からの詳細な報告一覧表あり(略)。

8月19~25日届出。コレラ:ブルキナファソ、ブルンジ、ギニアビサウ、モーリタニア、フィリピン。

コレラ。西アフリカ：西アフリカ8カ国(ブルキナファソ、ギニア、ギニアビサウ、リベリア、マリ、モーリタニア、ニジェールセネガル)で流行中。8月26日時点で31,259例(死亡517)。季節(雨期)や人口移動が関連。WHOは技術移転や疫学調査支援、医療品や水の塩素消毒器材供与を開始している(国別の詳細略。<http://www.who.int/topics/cholera/en/>)。

マールブルグ出血熱。アンゴラ最新情報：保健省発表。8月23日時点で374例(死亡329)、368例(死亡323)はウイジェ州。158例が確定、32例の接触者の追跡調査中。ウイルス確認検査はカナダの国立研究が担当。7月21日に確認例が死亡、安全注意を守って埋葬、その後確定例はない。

ポリオ。アンゴラ最新情報：8月23日時点で7例報告。最新の例は7月29日に実施された第1全国一斉ワクチン接種以前に発病。第2回一斉接種は8月26日、第3回が9月下旬に予定。インドネシア最新情報：8月24日時点で新規7例報告、累計225例で西部～中部ジャワで流行。最新野生株確認例は7月29日ジャカルタ中部で発病。第1回全国一斉ワクチン接種は5歳以下小児2,440万を対象に8月30日予定、第2回が9月27日に予定されている。

ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンに関するWHO検討会議。背景：途上国における女性の癌の主因の一つが子宮癌であり、世界全体で新規例が年間約50万、死亡例が年間約24万、その80%が途上国で発生していると推定されている。子宮頸癌の99%以上がHPVの性器感染と関連が濃厚とされている。HPV性器感染は世界的に分布していて、推定感染者数は66,000万名に及んでいる。HPVの遺伝子型は100以上あるが、子宮頸癌と関連深いのは16型と18型でこの2型が関連する例がアジア地区子宮頸癌例の75%、アフリカと中南米の65%、欧米地区の71.5%を占めている。HPV感染の主要年齢は25歳以下の青年で多くは無症状であるが稀に感染20～30年後に子宮頸癌が発病する。先進国では集団検診における子宮頸部細胞診の普及で子宮頸癌は減少しているが途上国に導入することは技術的、経済的な点などから困難で、HPVに対するワクチン接種は実際的で経済的と考えられる。HPVワクチンが2～3年以内に認可される予測がありWHOは05年4月14～15日にこのワクチンの有効性、安全性、経済性、HPVと子宮癌の疫学、他のワクチンとの関連、公衆衛生活動等に関して現在までの報告をもとに専門家会議を開催した。試作ワクチン：ワクチンの組成はDNAを除去したウイルス主要カプシド蛋白であるL1蛋白。現在までに2種類の試作品があり、一つは16、18型で構成、他はさらに6、11型(疣と関連)も含み、15～25歳の子宮頸部に前癌性病変をもつ女性を対象として南北アメリカ、欧州、アジアの多機関が参加して大規模第3相試験が進行中。3回接種法で実施されている。HPVワクチン採用に関与するWHOが重視する視点：HPV、子宮頸癌の重要性。接種年齢。スタッフの教育。接種スケジュール。有効性に関与する因子、他のワクチンとの関連。同時接種。ワクチン製造、輸送、配布の余裕が現場にあるか。経済効率。各国の現場を対象としたガイドライン作成が準備されている。

女性ホルモン含有避妊薬と骨疾患の関連に関するWHO勧告：ステロイドホルモン系の避妊薬は経口薬、注射薬、埋没(インプランツ)を含めて有効性が高く広範に使用されている。このステロイド系薬剤のうち、デポ型メドロキシプロゲステロンアセテート(DMPA)投与による骨障害(骨質喪失による骨折)が問題となっている。05年7月20～21日WHO本部で最近の知見について専門家会議開催、下記が勧告された。18～45歳の健康な女性ではDMPAの使用制限、中断の必要はない。思春期(初潮～18歳)と45歳以上の女性に関しては明確な知見が得られていない。長期使用には検討が必要である。他のプロゲステロン単独の薬剤の適応はDMPAと同じ。経口避妊薬として広く利用されている多ホルモン合剤に関しても使用制限、中断の必要はない。







愛知県感染症情報

2005年第1週～第36週(平成17年1月3日～平成17年9月11日)(累計)

愛知県衛生研究所

愛知県	定点数					RSウイルス感染症	鳥インフルエンザ(高病原性)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	51	13	123	80,236	2,550	6,559	29,179	10,154	2,166	846	4,275	44	28	12,264	20	7,520	23	1,152	8	5	170	0	1
総数 (名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	105	63,771	1,949	4,521	20,876	8,151	1,789	670	3,284	35	15	9,646	13	5,939	16	906	8	5	170	0	1
名古屋	70	70	11	14	1	18	16,465	601	2,038	8,303	2,003	377	176	991	9	13	2,618	7	1,581	7	246					
尾張東部	9	9	2	3	1	14	4,171	487	547	1,074	390	50	33	184	1	2	666	3	253		34			50		
海部	7	7	2	2	1		3,211	24	125	1,512	323	72	78	122		1	542		577		34	1	1	11		
尾張中部	4	4	1	1			2,064	2	137	660	224	18	22	80		1	404		121	1	54					
尾張西部	16	12	3	4	1	3	4,491	155	318	1,740	444	256	30	287	2	1	631		534	1	77	1				
尾張北部	9	9	2	3	1	18	7,535	341	370	1,291	572	117	31	338	10	6	888	1	267		38				1	
	6	6	1	2		3	2,731	170	502	1,605	642	105	40	328			772	2	489		41					
知多半島	6	6	1	2	1	7	2,950	148	175	943	371	172	30	145	1		133	1	256	3	58			3		
	7	7	2	2		7	3,766	129	420	1,084	401	56	29	234		1	457	1	386	1	26					
西三河南部	11	7	2	2	1	5	6,131	55	319	525	641	124	52	423	4		962		617	4	60					
	13	13	2	4	1	6	9,033	66	402	1,714	1,064	128	133	316	3	1	1,011	3	593		174			12		
	5	5	1	2	1	12	1,893	20	191	700	437	154	40	141			498		179		27					
西三河北部	9	9	2	4	1	8	4,651	41	409	4,677	772	92	55	284	9	1	1,139		504		107	3	3	67		
東三河南部	12	8	2	4	1	2	6,866	239	382	1,890	528	150	48	244	1		698		215	2	116	3		23		
	9	8	1	2	1	20	3,616	68	213	1,430	1,291	288	48	154	4	1	821	2	939	4	60		1	4		
東三河北部	2	2			1		662	4	11	31	51	7	1	4			24		9							

愛知県感染症情報

2005年第1週～第36週(平成17年1月3日～平成17年9月11日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザを 除く。(高病原性鳥 インフルエンザを 除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
計	105	63,771	1,949	4,521	20,876	8,151	1,789	670	3,284	35	15	9,646	13	5,939	16	906	8	5	170	0	1
～6ヶ月	50	319	14	9	318	209	19	2	217	11	1	106		6		7					
～12ヶ月	22	959	85	27	1,334	475	118	36	1,804	4		704	2	25		6					
0歳																	4		4		
1歳	15	3,279	316	138	3,054	1,386	438	36	1,164	4	2	2,131	3	272		31		1	24		
2歳	10	3,675	252	244	2,166	1,347	321	33	86	2	3	1,675	1	544	1	27			26		
3歳		4,334	383	514	1,920	1,702	337	75	12	2	1	1,693	1	977	1	47	1		23		
4歳	2	5,537	336	820	1,703	1,401	226	102		2	1	1,295	1	1,254		31			14		
5歳	2	5,473	230	922	1,485	815	161	106		1	3	930	3	1,042	1	24					
6歳	3	5,343	134	625	1,081	352	63	82		2		483	1	709	1	17					
7歳	1	4,021	61	394	795	185	31	61			2	255		375		12					
8歳		3,659	33	239	667	88	24	49		1		138		242	1	14					
9歳		3,188	29	172	534	49	13	39				88	1	144		8					
5歳～9歳																			42		
10歳～14歳		5,827	42	229	1,294	91	12	39	1	1	1	100		214		24			14		
15歳～19歳		993	4	23	468	11		1				9		21	1	19			1		
20歳～			30	165	4,057	40	26	9		5	1	39		114			3				
20歳～29歳		4,271													3	140		1	4		
30歳～39歳		6,135													2	254		1	6		1
40歳～49歳		2,631													2	83		1	2		
50歳～59歳		1,857													3	68		1	2		
60歳～69歳		1,149														54			4		
70歳～																40					
70歳～79歳		684																	3		
80歳以上		437																	1		